

## 議案第1号

### 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

#### 1. 事業評価の目的等

みやま市地域公共交通活性化協議会が策定する「生活交通確保維持改善計画」は、国の地域公共交通確保維持改善事業の支援を受けて進めているものです。該当する事業については、毎年度、協議会において事業の実施状況の確認、目標達成状況等の事業評価を行うこととされております。

生活交通確保維持改善計画に位置付けられた補助対象事業について、事業の実施状況の確認、目標達成状況等の評価を行うことによって、補助対象事業がより効果的、効率的に推進されることを目的としています。

#### 2. 事業評価の流れ

①「生活交通確保維持改善計画」…令和元年6月21日協議会にて策定

②事業実施…実施期間：令和元年10月1日～令和2年9月30日

③自己評価（一次評価）…令和3年1月に運輸局に報告

※今回ご審議いただく内容になります。

④二次評価…各地方運輸局等に設置された第三者評価委員会において、一時評価の結果に対し、客観性・妥当性の検証及び今後に向けてのアドバイスを受けます。

#### 3. 「地域内フィーダー系統関係」一次評価について

第1回協議会（令和元年6月21日開催）において承認された「生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）」に基づき運行を行ったコミュニティバス9路線14系統についての事業評価です。

「④事業実施の適切性」については、自然災害や事故などのトラブルもなく、計画通り運行することができたため、全ての路線についてAと評価しました。

「⑤目標・効果達成状況」については、コロナウィルスの影響が比較的少なかった10月～3月の集計において、目標を達成したものはAとし、目標を達成できなかったもので1便あたりの利用者数が2人以上のものはB、1便あたりの利用者数が2人未満のものはCと評価しました。

## 概要



コミュニティバス「くすっぴー号」



### ●運行の主体 みやま市

本市の交通状況は、市中央部に3つの駅を有するJR鹿児島本線が南北に横断し、その西側を2つの駅を有する西鉄天神大牟田線が併走している。また、市東部には九州新幹線が走り、筑後船小屋駅が隣接している。バス路線としては、堀川バスが1路線(瀬高・柳川線)のみ、JR瀬高駅から隣接する柳川市まで運行している。市では、平成20年4月より高齢者や障がいがある方等を対象に、生活交通手段の確保を目的に、福祉バスを運行していたが、誰もが利用可能な生活交通手段を求める意見が市民より多く寄せられていた。そのため平成30年3月より定時定路線型コミュニティバス「くすっぴー号」(市町村有償運送)の運行を開始した。

## 基礎データ

合併状況: 平成19年1月に瀬高町、山川町、高田町が合併  
 人口: 36,930人(令和2年3月末時点)  
 面積: 105.21平方キロメートル  
 過疎地域等指定: 過疎  
 高齢化率: 37.5%(令和2年3月末時点)  
 系統数: コミュニティバス9路線14系統  
 運行便数: 1日2便~6便  
 自治体負担額: H28(0千円)、H29(0千円)、H30(23,750千円)、R1(30,736千円)  
 協議会開催数: 協議会 年3回(R2年度予定)

## 計画、目標(Plan)

誰もが利用可能な定時定路線型コミュニティバスを市内全域で運行させ、市民(主に高齢者等)の日常生活における移動手段を確保する。運行にあたっては、路線バスや鉄道など既存の公共交通機関とも連携を図りながら、各地区と医療機関、商店などの生活目的施設、市役所などの公的機関を結び、利用しやすい公共交通ネットワークの形成を目指す。

## 生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

- ・定時定路線型のコミュニティバス6台(26人乗りマイクロバス2台、12人乗り大型ワゴン4台)を運行し、誰もが利用できる生活交通手段の確保を図った。
- ・広報誌での記事掲載や全世帯への時刻表の配布、ホームページでの情報発信、出前授業で利用呼びかけ、市民祭りでの街頭啓発、など利用促進のための取組みを行った。
- ・利便性向上のため、一部路線延長や市役所バス停に防風カーテンの設置を行った。
- ・利用状況の集計・分析を実施した。

## 実施状況、目標の達成(Check)

○コミュニティバスの1便当たり乗車人数※R1.10~R2.3の集計

- |                                  |                               |
|----------------------------------|-------------------------------|
| ・水上・本郷線 6.21人(目標:4人)             | ・山川・瀬高線① 12.32人(目標:9人)        |
| ・清水・上庄線 1.74人(目標:3人)             | ・山川・瀬高線② 1.78人(目標:2人)         |
| ・瀬高・高田線(太神・岩田経由) ①3.62人(目標:4人)   | ・山川・瀬高線③ 1.68人(目標:2人)         |
| ・瀬高・高田線(太神・岩田経由) ②2.21人(目標:4人)   | ・高田南部・西部線① 3.68人(目標:3人)       |
| ・高田・瀬高線(江浦・浜田・大江経由) 5.20人(目標:5人) | ・高田南部・西部線② 4.13人(目標:3人)       |
| ・高田・瀬高線(国道209号経由) 7.80人(目標:8人)   | ・山川・高田線(亀谷・竹飯経由) 2.25人(目標:3人) |
| ・高田・瀬高線(国道209号経由) 0.01人(目標:2人)   | ・山川・高田線(田浦・田尻経由) 1.46人(目標:3人) |

○14系統中、目標達成は5系統、目標未達成は9系統であった。系統により、増加、減少しているが、目標未達成の割合が高い。

○達成できなかった系統では、利用者のほとんどが福祉バスを利用していた高齢者であり、それ以外の利用が伸びなかった。また、比較的コロナの影響がない時期のみで集計・比較しているが、多少は影響があったかもしれない。

## 今後の課題、対応(Action)

○利用状況の分析や、地域住民、利用者の声を受けて、利用しやすい運行ができるように、令和3年4月より運行の一部見直し(ルートの見直し、ダイヤ改正)を実施する。

○今後のコロナ感染症の状況にもよるが、まずはコロナ禍前の水準に利用者数を戻すよう利用促進を図る。

※PDCAを記入する際、枠が足りない場合は、次頁に作成することも可能です。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月22日

協議会名:みやま市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

※コロナ前(10月～3月)、コロナ後(4月～9月)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 (内は昨年の評価です。)	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
みやま市 水上・本郷線	瀬高町の水上～清水～上庄～ 本郷地域を運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報、HP、コミュニティFMでの情報発信やイベントや学校での啓発活動を実施した。</li> <li>・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。</li> <li>・利用状況の把握及び分析を実施し、令和2年4月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	A (A) 【目標】4人／便 【コロナ前】6.21人／便 【コロナ後】3.85人／便 【通年】5.04人／便 【目標比】+2.21人※コロナ前と目標の比較 目標達成できた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日より運行ルート及びダイヤの見直しを実施したが、コロナウィルスの影響により検証が難しい。</li> <li>・コロナウィルスの影響で利用者が落ち込んでいる。ワクチン等が開発され、感染状況が落ち着いたら、まずは、コロナ前の利用者数に戻すことを目標に取り組む。</li> </ul>
みやま市 清水・上庄線	瀬高町の清水～水上～本郷～ 上庄地域を運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報、HP、コミュニティFMでの情報発信やイベントや学校での啓発活動を実施した。</li> <li>・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。</li> <li>・利用状況の把握及び分析を実施し、令和2年4月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	C (B) 【目標】3人／便 【コロナ前】1.74人／便 【コロナ後】0.59人／便 【通年】1.17人／便 【目標比】-1.26人※コロナ前と目標の比較 目標達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日より運行ルート及びダイヤの見直しを実施したが、コロナウィルスの影響により検証が難しい。</li> <li>・コロナウィルスの影響で利用者が落ち込んでいる。ワクチン等が開発され、感染状況が落ち着いたら、まずは、コロナ前の利用者数に戻すことを目標に取り組む。</li> </ul>
みやま市 瀬高・高田線 (太神・岩田経由①)	瀬高町～高田町を太神・岩田 地域を經由して運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報、HP、コミュニティFMでの情報発信やイベントや学校での啓発活動を実施した。</li> <li>・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。</li> <li>・利用状況の把握及び分析を実施し、令和2年4月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (A) 【目標】4人／便 【コロナ前】3.62人／便 【コロナ後】1.67人／便 【通年】2.65人／便 【目標比】-0.38人※コロナ前と目標の比較 目標達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日より運行ルート及びダイヤの見直しを実施したが、コロナウィルスの影響により検証が難しい。</li> <li>・利用促進の取り組みもできなかった。</li> <li>・コロナウィルスの影響で利用者が落ち込んでいる。ワクチン等が開発され、感染状況が落ち着いたら、コロナ前の利用者数に戻すことを目標に取り組む。</li> </ul>

<p>みやま市 瀬高・高田線 (太神・岩田経由②)</p>	<p>瀬高町～高田町を太神・岩田 地域を經由して運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの 情報発信やイベントや学校で の啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりや すい時刻表を作成し全戸配布 を行った。 ・利用状況の把握及び分析を 実施し、令和2年4月1日より運 行ルート及びダイヤの一部見 直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実 施された。</p>	<p>B (B)</p>	<p>【目標】4人／便 【コロナ前】2.21人／便 【コロナ後】1.34人／便 【通年】1.78人／便 【目標比】-1.79人※コロナ 前と目標の比較 目標達成できなかった。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダ イヤの見直しを実施したが、コ ロナウィルスの影響により検証 が難しい。 ・利用促進の取り組みもできな かった。 ・コロナウィルスの影響で利用 者が落ち込んでいる。ワクチン 等が開発され、感染状況が落 ち着いたら、コロナ前の利用者 数に戻すことを目標に取り組 む。</p>
<p>みやま市 高田・瀬高線 (江浦・浜田・大江経由)</p>	<p>高田町～瀬高町を江浦・浜田・ 大江地域を經由して運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの 情報発信やイベントや学校で の啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりや すい時刻表を作成し全戸配布 を行った。 ・利用状況の把握及び分析を 実施し、令和2年4月1日より運 行ルート及びダイヤの一部見 直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実 施された。</p>	<p>A (B)</p>	<p>【目標】4人／便 【コロナ前】5.20人／便 【コロナ後】3.96人／便 【通年】4.59人／便 【目標比】+1.2人※コロナ 前と目標の比較 目標達成できた。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダ イヤの見直しを実施したが、コ ロナウィルスの影響により検証 が難しい。 ・利用促進の取り組みもできな かった。 ・コロナウィルスの影響で利用 者が落ち込んでいる。ワクチン 等が開発され、感染状況が落 ち着いたら、コロナ前の利用者 数に戻すことを目標に取り組 む。</p>
<p>みやま市 高田・瀬高線 (国道209号経由)</p>	<p>高田町～瀬高町を国道209号 を經由して運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの 情報発信やイベントや学校で の啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりや すい時刻表を作成し全戸配布 を行った。 ・利用状況の把握及び分析を 実施し、令和2年4月1日より運 行ルート及びダイヤの一部見 直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実 施された。</p>	<p>B (B)</p>	<p>【目標】8人／便 【コロナ前】7.80人／便 【コロナ後】4.70人／便 【通年】6.26人／便 【目標比】-0.2人※コロナ前 と目標の比較 目標達成できた。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダ イヤの見直しを実施したが、コ ロナウィルスの影響により検証 が難しい。 ・利用促進の取り組みもできな かった。 ・コロナウィルスの影響で利用 者が落ち込んでいる。ワクチン 等が開発され、感染状況が落 ち着いたら、コロナ前の利用者 数に戻すことを目標に取り組 む。</p>

<p>みやま市 高田・瀬高線 (国道209号経由)</p>	<p>新船小屋からJR瀬高駅間を運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの情報発信やイベントや学校での啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・利用状況の把握及び分析を実施し、令和2年4月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>C (C)</p>	<p>【目標】2人／便 【コロナ前】0.01人／便 【コロナ後】0人／便 【通年】0.01人／便 【目標比】 -1.99人※コロナ前と目標の比較 目標達成できなかった。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダイヤの見直しを実施したが、コロナウィルスの影響により検証が難しい。 ・利用促進の取り組みもできなかった。 ・コロナウィルスの影響で利用者が落ち込んでいる。ワクチン等が開発され、感染状況が落ち着いたら、コロナ前の利用者数に戻すことを目標に取り組む。</p>
<p>みやま市 山川・瀬高線①</p>	<p>山川町の真弓公民館～瀬高町の市立図書館を国道443号を經由して運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの情報発信やイベントや学校での啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・利用状況の把握及び分析を実施し、令和2年4月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>A (A)</p>	<p>【目標】9人／便 【コロナ前】12.32人／便 【コロナ後】6.16人／便 【通年】9.26人／便 【目標比】 +3.32人※コロナ前と目標の比較 目標達成できた。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダイヤの見直しを実施したが、コロナウィルスの影響により検証が難しい。 ・利用促進の取り組みもできなかった。 ・コロナウィルスの影響で利用者が落ち込んでいる。ワクチン等が開発され、感染状況が落ち着いたら、コロナ前の利用者数に戻すことを目標に取り組む。</p>
<p>みやま市 山川・瀬高線②</p>	<p>山川町の市役所山川支所～瀬高町の市立図書館を国道443号を經由して運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの情報発信やイベントや学校での啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・利用状況の把握及び分析を実施し、令和2年4月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>C (C)</p>	<p>【目標】2人／便 【コロナ前】1.78人／便 【コロナ後】1.36人／便 【通年】1.57人／便 【目標比】 -0.22人※コロナ前と目標の比較 目標達成できなかった。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダイヤの見直しを実施したが、コロナウィルスの影響により検証が難しい。 ・利用促進の取り組みもできなかった。 ・コロナウィルスの影響で利用者が落ち込んでいる。ワクチン等が開発され、感染状況が落ち着いたら、コロナ前の利用者数に戻すことを目標に取り組む。</p>
<p>みやま市 山川・瀬高線③</p>	<p>瀬高町のJR瀬高駅～山川町の真弓公民館を国道443号を經由して運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの情報発信やイベントや学校での啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・利用状況の把握及び分析を実施し、令和2年4月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>C (A)</p>	<p>【目標】2人／便 【コロナ前】1.68人／便 【コロナ後】1.20人／便 【通年】1.44人／便 【目標比】 -0.32人※コロナ前と目標の比較 目標達成できなかった。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダイヤの見直しを実施したが、コロナウィルスの影響により検証が難しい。 ・利用促進の取り組みもできなかった。 ・コロナウィルスの影響で利用者が落ち込んでいる。ワクチン等が開発され、感染状況が落ち着いたら、コロナ前の利用者数に戻すことを目標に取り組む。</p>

<p>みやま市 高田南部・西部線①</p>	<p>高田町の南部及び西部地域を あたご苑から市役所高田支所 を經由して運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの 情報発信やイベントや学校で の啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりや すい時刻表を作成し全戸配布 を行った。 ・利用状況の把握及び分析を 実施し、令和2年4月1日より運 行ルート及びダイヤの一部見 直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実 施された。</p>	<p>A (A)</p>	<p>【目標】3人／便 【コロナ前】 3.68人／便 【コロナ後】 2.84人／便 【通年】3.26人／便 【目標比】 +0.68人※コロ ナ前と目標の比較 目標達成できた。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダ イヤの見直しを実施したが、コ ロナウィルスの影響により検証 が難しい。 ・利用促進の取り組みもできな かった。 ・コロナウィルスの影響で利用 者が落ち込んでいる。ワクチン 等が開発され、感染状況が落 ち着いたら、コロナ前の利用者 数に戻すことを目標に取り組 む。</p>
<p>みやま市 高田南部・西部線②</p>	<p>高田町の南部及び西部地域を ヨコクラ病院前から市役所高田 支所を經由しJR渡瀬駅まで運 行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの 情報発信やイベントや学校で の啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりや すい時刻表を作成し全戸配布 を行った。 ・利用状況の把握及び分析を 実施し、令和2年4月1日より運 行ルート及びダイヤの一部見 直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実 施された。</p>	<p>A (A)</p>	<p>【目標】3人／便 【コロナ前】 4.13人／便 【コロナ後】 2.11人／便 【通年】3.13人／便 【目標比】 +1.13人※コロ ナ前と目標の比較 目標達成できた。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダ イヤの見直しを実施したが、コ ロナウィルスの影響により検証 が難しい。 ・利用促進の取り組みもできな かった。 ・コロナウィルスの影響で利用 者が落ち込んでいる。ワクチン 等が開発され、感染状況が落 ち着いたら、コロナ前の利用者 数に戻すことを目標に取り組 む。</p>
<p>みやま市 山川・高田線 (亀谷・竹飯経由)</p>	<p>山川町～高田町を亀谷・竹飯 地域を經由して運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの 情報発信やイベントや学校で の啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりや すい時刻表を作成し全戸配布 を行った。 ・利用状況の把握及び分析を 実施し、令和2年4月1日より運 行ルート及びダイヤの一部見 直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実 施された。</p>	<p>B (B)</p>	<p>【目標】3人／便 【コロナ前】 2.25人／便 【コロナ後】 1.43人／便 【通年】1.84人／便 【目標比】 -0.75人※コロ ナ前と目標の比較 目標達成できなかった。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダ イヤの見直しを実施したが、コ ロナウィルスの影響により検証 が難しい。 ・利用促進の取り組みもできな かった。 ・コロナウィルスの影響で利用 者が落ち込んでいる。ワクチン 等が開発され、感染状況が落 ち着いたら、コロナ前の利用者 数に戻すことを目標に取り組 む。</p>
<p>みやま市 山川・高田線 (田浦・田尻経由)</p>	<p>山川町～高田町を田浦・田尻 地域を經由して運行</p>	<p>・市報、HP、コミュニティFMでの 情報発信やイベントや学校で の啓発活動を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりや すい時刻表を作成し全戸配布 を行った。 ・利用状況の把握及び分析を 実施し、令和2年4月1日より運 行ルート及びダイヤの一部見 直しを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>計画通り事業は適切に実 施された。</p>	<p>C (C)</p>	<p>【目標】3人／便 【コロナ前】 1.46人／便 【コロナ後】 0.85人／便 【通年】1.16人／便 【目標比】 -1.54人※コロ ナ前と目標の比較 目標達成できなかった。</p>	<p>・4月1日より運行ルート及びダ イヤの見直しを実施したが、コ ロナウィルスの影響により検証 が難しい。 ・利用促進の取り組みもできな かった。 ・コロナウィルスの影響で利用 者が落ち込んでいる。ワクチン 等が開発され、感染状況が落 ち着いたら、コロナ前の利用者 数に戻すことを目標に取り組 む。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月22日

協議会名:	みやま市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	本市では、平成20年4月より高齢者や障がいがある方等を対象に、生活交通手段の確保を目的に、福祉バスを運行していたが、誰もが利用可能な生活交通手段を求める意見が市民より多く寄せられていた。そのため平成30年3月より定時定路線型コミュニティバス「くすっぴー号」(市町村有償運送)の運行を開始した。運行にあたっては、路線バスや鉄道など既存の公共交通機関とも連携を図りながら、各地区と医療機関、商店などの生活目的施設、市役所などの公的機関を結ぶ、利用しやすい公共交通ネットワークの形成を目指す。

2み企企第1031号  
令和3年1月22日

九州運輸局長 殿

住所 福岡県みやま市瀬高町小川5番地  
協議会名 みやま市地域公共交通活性化協議会  
代表者名 会長 宮崎 敬介

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価の提出について

令和2年度地域公共交通確保維持改善事業に伴う事業評価を行いましたので、別添のとおり報告します。

担当部署:みやま市総務部企画振興課企画地方創生係  
担当者名:吉田  
連絡先:0944-64-1504  
E-mail:kikaku@city.miyama.lg.jp